

浦賀上陸地支局

(昭和二十一年 月 日)

史實調査參考資料報告

所在地	沖繩縣島尻郡	職官	野地中隊隊長	摘要
野地中隊第四十二隊	職官	少佐	[Redacted]	終戦時、 モリヲ記ス
支那予 変以降 三於元 自己略 歴	昭一八、三、六、独立連隊隊長、才五大隊中隊長、上海附近職、支更	昭一六、三、二、内地師團長、任佐世保重砲隊隊長、中隊長	昭一六、三、七、陸軍重砲隊、各校教官、島下志作陸軍	昭一五、六、二、陸軍重砲隊、各校教官、島下志作陸軍
所屬部隊 編成 月日及 制北 概要	野地中隊、昭和十四年十月十日、編成、 才五大隊、昭和二十年二月十日、編成、 才五大隊、昭和二十年二月十日、編成、 才五大隊、昭和二十年二月十日、編成、	昭一六、三、二、内地師團長、任佐世保重砲隊隊長、中隊長	昭一六、三、七、陸軍重砲隊、各校教官、島下志作陸軍	昭一五、六、二、陸軍重砲隊、各校教官、島下志作陸軍
終戦 力 戦 後	主力、戦中終了後、各隊毎、階地ヲ因守シ、戦斗シタルニ、 隊本部、却リ、才五大隊、兵隊、北才五古地、才五古地、 才五古地、才五古地、才五古地、才五古地、才五古地、才五古地、	昭一六、三、二、内地師團長、任佐世保重砲隊隊長、中隊長	昭一六、三、七、陸軍重砲隊、各校教官、島下志作陸軍	昭一五、六、二、陸軍重砲隊、各校教官、島下志作陸軍
其他 参考 事項	[Redacted]	昭一六、三、二、内地師團長、任佐世保重砲隊隊長、中隊長	昭一六、三、七、陸軍重砲隊、各校教官、島下志作陸軍	昭一五、六、二、陸軍重砲隊、各校教官、島下志作陸軍

16

浦賀上陸地支局

(昭和二十一年 月 日)

史實調査参考資料報告

所在地	沖繩縣島尻郡	職官	野村 少佐	摘要	終戦時、 モロヲ記又
所属部隊	野砲中隊四十二隊隊	職官	野村 少佐	摘要	終戦時、 モロヲ記又

支那予
交以降
二於
自己
歴

昭一五八二。独立隊砲兵五大隊中隊長トシ上海附近
昭一六三二。内地歸還任佐世保重砲中隊長
昭一六三三。陸軍砲兵中隊隊長トシ上海附近
昭一九六三。陸軍砲兵中隊隊長トシ上海附近
昭一九六六。陸軍砲兵中隊隊長トシ上海附近
昭一九六八。陸軍砲兵中隊隊長トシ上海附近

所屬部隊
編成
月日及編
制名準備
概要

野砲中隊四十二隊隊
昭和二十一年四月十日
編成
野砲中隊四十二隊隊
昭和二十一年四月十日
編成
野砲中隊四十二隊隊
昭和二十一年四月十日
編成

終戦時
力戦斗
終了後
状況

主刀、戦斗終了後、各隊毎に所地ヲ固守シ戦斗ニ入リ
聯隊本部及第一、第四大隊、真壁北方八五五高地、野天
八真壁不平、中海軍砲大隊、真壁北方八五五高地、野
（真壁北方）に於テ三三高地敵、真壁攻守ヲ要スルニ
夜、総員漸次ヲ散行セリ。

帰郷又ハ
連絡先

（真壁北方）に於テ三三高地敵、真壁攻守ヲ要スルニ
夜、総員漸次ヲ散行セリ。

16

其他、参
考事項

史實調査參考資料報告

摘要

備考	其ノ他ノ參考事項	先	終戦(又ハ主力ノ戦闘終了)後ノ概況	所屬部隊作戦經過ノ概要	所在部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略歴	所屬(固有名)	職官	終戦時ノモノヲ記ス
							全右所在地	氏名	
將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス		[Redacted]	<p>大月子白以降華ノ組織的戦斗不能トナリタリ遊要の手段ヲ以テ戦斗続行ス</p> <p>部隊ノ主力ハ大月子ニ以テ組織的戦斗不能トシ殊兵員力ハソレ以降長期持久戦ヲ強要シテソレモ終戦ノ爲八月二十日退却ニ至リ遂ニ解降シテソレ</p>	<p>自昭和二〇.三.三(大)島尻湊川地区に滞留</p> <p>至二〇.四.一〇</p> <p>自昭和二〇.四.上(大)首里附近戦斗参加</p> <p>至二〇.五.三(大)</p> <p>自昭和二〇.五.九(大)島尻地区戦斗参加</p> <p>至二〇.六.二二(大)</p>	<p>昭和十四年創立</p> <p>甲編制</p>	<p>昭和二十一年十月一日降参少尉任官 野砲四聯隊 大隊本部附</p> <p>昭和十九年八月五日 沖繩本島上陸</p> <p>自昭和二十年三月二十三日</p> <p>至二〇.三.三十一 沖繩作戦参加</p>	野砲兵第四十三聯隊	大隊本部附	[Redacted]
							沖繩本島	[Redacted]	

81

81

沖繩作戰
二於ル

野砲兵第四十二聯隊史実資料

昭和二十二年三月二十五日

第三十二軍殘務整理部

一 部隊の復讐(沖繩進駐までの復讐)

1 部隊名 才十四師団 野砲兵才四十二聯隊(滿洲才七九五部隊)

2 所在地 滿洲東遼省西東部
昭和三十九年三月六日 才三大隊動員下令
昭和三十九年七月六日 野砲兵才四十二聯隊動員下令

3 創立 昭和三十四年十月六日
昭和三十九年七月六日 西東遼省
昭和三十九年七月七日 西東遼省
昭和三十九年七月七日 圖們經由釜山到達
昭和三十九年八月一日 内司港出帆(砲空丸)
昭和三十九年八月五日 沖繩那覇港到着

二 部隊の作戦開始時の編成(昭和三十九年三月現在)

1 聯隊本部 聯隊長 西澤勇雄 大佐 副官 澤山大尉

指揮班長 山崎少佐 通信掛 小紙中尉 無線科 福田少尉
連絡掛 大益大尉 軍医官 矢野大尉 野医官 岩崎中尉

2 指揮班 観測 通信 輜重 兵器科 能木少尉
3 聯隊段列 長 新増大尉 總員約百八十名
總員約百四十名

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

- 3. 才一大隊本部 大隊長 藤井 佐
- 指揮班 船笠 原中尉 總員約八十名
- 5. 大隊投列 長 村山 中尉 總員約八十名
- 6. 一中隊 長 相田 大尉 總員約四十名
- 7. 二中隊 長 志田 大尉 令 右
- 8. 三中队 長 北林 大尉 令 右
- 9. 才一大隊本部 大隊長 宇達 大尉
- 指揮班 長 春山 中尉 總員約八十名
- 11. 大隊投列 長 山口 中尉 全 右
- 12. 四中队 長 和四 中尉 總員約四十名
- 13. 五中队 長 桑原 大尉 令 右
- 14. 六中队 水 上中尉 總員約四十名
- 15. 才一大隊本部 元四大隊 大隊長 作向 少佐
- 指揮班 長 能登 中尉 總員約百名
- 16. 大隊投列 長 桑田 中尉 令 右
- 17. 七中队 長 寬原 大尉 總員約六十名
- 18. 八中队 長 若下 中尉 令 右
- 19. 九中队 長 土門 大尉 全 右
- 20. 海軍砲台大隊本部 大隊長 仁位 少佐
- 21. 指揮班 長 村山 中尉 總員約八十名

23. 七砲台一中隊長 戸成 海軍少尉 二中隊長 橋本 海軍少尉 合計總員約百名

24. 八砲台長 中田 中尉 總員約八十名

三 指揮隊 既属 團隊

八 作戦開始前 才三二軍才三十四師団に隷属

才四隊三四七四に配属 才一中隊三四五に配属(系滿)

2. 作戦開始後 全右 但し才三大隊五六中隊は四月十日より四月二十五日まで軍砲兵司令部に配属せらる。

四 戦況経過の概要

四月十日 才一大隊 砲台四中队 首里の線に転進 砲台に協力 大隊本部 観測所は辨ヶ岳 五六中队 砲台陣地 運玉森 磯南 弁凹地

四月十五日 取隊主力(取隊二天 三天 四天) 首里の線に転進

取隊 観測所 識名 四月十九日 首里地方 砲台 山に移動

二三大隊 観測所 辨ヶ岳 一大隊 観測所 運玉森 四大隊 島尻 平良

一三大隊 砲台陣地は南見原 大名附近 二大隊 砲台に同じ

四大隊 砲台陣地は島尻 平良

五月十日 五中隊 砲台 新川に移動

24P

五月二十三日、聯隊本部、首星城跡に移動す。

五月二十九日、聯隊主力島尻地区へ撤退す。

聯隊本部、一大隊本部、四大隊本部、新垣に陣地占領

一大隊本部砲列陣地、新垣附近

二大隊本部、與座岳砲列陣地、與座岳南方台地

六月二十日、聯隊本部及觀測所、眞壁、四大隊火砲全部破壊

六月二十一日、聯隊本部の位置を以て杜絶す。

最後の詳細なる状況不明なるも、概ね右陣地に於て最後迄戦闘を続行せ

るも、二大隊は六月十九日火砲全部破壊せられ、戦闘力を失ふ。他の大隊は六月

二十二日までに大體戦闘力を失ふ。

回答以上